

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇17



ゆとり教育世代の子どもたちは、何をやるにも「面倒くさい」という気持ち先に来るようです。

先日中2の男子が英語の授業で「often」と書いてから「the often」を書くまで約10秒も休んでいました。何を書いているのか観察

逆境・順境

していたら「often」という単語を書くのに途中で休憩していたのです。

また、中3の俊平君は、プリントに自分の名前を書くときに「俊」で休んでしまい、「平」は書かずに終わりで、中1の高橋君は名字と名前の間に休憩を挟み、「高橋橋」と橋を二つ並べてプリントを提出しました。日々驚くことに遭遇します。

私は、子どもたちの

不自由さが子ども磨く

修学旅行も数少ない好機



by yoriko

休みの日の過ごし方は、部活動がなければ、やはり家族と過ごすことが多いようです。最近では、家族全員が車に乗ってもそれぞれの別々の音楽を聴いたり、携帯でメールを

「やる気」の問題の根底には、他人とのかわり方の問題があると思っっています。小学校から中学校、高校まで、送り迎え、携帯電話、コンビニでの買い物という便利な生活の中で、子どもたちは学校の先生以外に、大人と深くかかわるという機会になかなか恵まれません。

したり、また全員で食卓を囲んでも、たわいの話をした後、それぞれの部屋でそれぞれの時間を過ごすというスタイルも少なくないようです。これでは、子どもたちは日常生活で、一流の方々から「気づき」を頂いたり、多様な生きざまを目の当たりにして、「私もやるぞ!」という気持ちになつたりすることは難しいと思えます。

われわれ親の世代が子どもだったころは、日が暮れるまで外で遊ぶより、自然の中で身の回りの危険と安全を探りながら、不便を工夫する経験を身に付けてい

4月、5月は中3生が修学旅行に出かける時期です。東京まで新幹線で約3時間。大変便利になりました。試練や苦難は期待できませんが、親元を離れ、不便を味わう数少ない好機です。面倒くさがらず積極的にかわり、多くの「気づき」を持ち帰ってほしいものです。

(畑山篤志学塾塾長)



シンポジウム
の解決へ向け、
東

子ども

全

7人に1人
えぐ日本。子
り組もうと、
の貧困』全国
立シンポジウ
で開かれた。
をしていくこ
厚生労働省
分所得を高い
半分を満たな
貧困率」を公
年比0.8%
998年以降
の貧困率は同
%と、7人に
シンポジウ
0人が参加。
ヨんで保育や

教育

「とみられています。

適した電池の製造が難しかったのですが、近年、比較的安く、性能の良い電池が開発されました。

そこで、大手自動車メーカーは競うようにEV

自動車は昨年、「アイ・ミ

です。政府や自治体は環境対策として、EVを買

う人に補助金を出して、ますが、アイ・ミープは国の補助金を差し引いても284万円。ガソリン車の2倍近くします。

次に、電池があまり長持ちしないこと。アイ・



ニュース なぜなに